

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	なるかわ けいいちろう		
	生川 慶一郎	印	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	もり たかとも		
	森 隆知	印	立命館大学政策科学部政策科学科
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域デザイン調査 (B クラス)	RMKd-140902-2	54	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査テーマによるグループ分けを行い、調査フレームを5つ (①調査計画の立案および実施、②分析・評価、③将来像を構想する、④空間をデザインする、⑤運営ルールをつくる) に分けて、それぞれのフレームで一度、個人ワークの提出とグループ単位の小発表、最終講義ではこれまでの作業成果のまとめ発表した。学生は、いずれの過程においても主体的な役割を持ち、グループワークとして積極的な議論を行い、具体的な提案につながるなど課題の質的向上に努めていた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学キャンパス及び大学周辺で抱える地域課題を挙げ、その問題解決を実現する建築環境デザイン/建築計画
2. 調査の内容/概要：バリアフリーで安全・安心な空間づくり、人が集う・憩いの居場所づくり、路上喫煙のあり方、バス・自転車・歩行者などの交通のあり方、地域資源 (歴史的建造物・文化財) を活用した観光まちづくりによる地域活性化
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：大学キャンパス内および大学周辺地域 (主に徒歩圏内) / キャンパス内の学生および施設管理者をはじめ調査目的・対象に応じた関係施設
4. 主な調査項目：大学キャンパス内の広場利用、歩行者空間、サイン計画、路上喫煙の実態、災害時の大学キャンパス内の避難場所およびその周知方法、帰宅ピーク時の大学隣接バス停の利用実態、龍安寺および妙心寺等の周辺地域の景観、大学周辺の道路の安全性

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：定量調査は学生自らが直接現地に赴き実施した。大学キャンパス内の施設および大学周辺の関係施設に関する定性調査についても、学生が調査票を持参し、聞き取り調査 (自記式で回答) を行った。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2013 年 10 月～2013 年 12 月・大学キャンパス内および大学周辺地域・調査に参加したのは全学生 54 名
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：写真撮影による実態調査に加え、街頭アンケート調査が中心となっている。アンケート調査については調査目的、調査対象の状況に併せて、調査時間として適切な時間帯に実施し、統計処理を行うことからできる限り有効回答数を増やす努力を行った。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：写真撮影による実態調査に加え、街頭アンケート調査が中心となっている。アンケート調査については調査目的、調査対象の状況に併せて、調査時間として適切な時間帯に実施し、統計処理を行うことからできる限り有効回答数を増やす努力を行った。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：当科目は問題の発見から事実の分析、提案の提示にまで至る地域デザインに関する一通りの調査過程を経験させる科目であった。調査の正確性と解決案の新規性を両立することができる学生は少なかったが、概して、前者の正確な調査活動の習得は十分であったため、この点を今後も強化していく。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書の刊行予定は特になし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて (3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って) 記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を (*/*) には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら 1/3 とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。